

令和6年度京都府周産期医療協議会

令和7年1月30日(木)

10時00分～12時00分

京都ガーデンパレス 鞍馬

次 第

1 報告事項

- (1) 周産期医療ネットワークの進捗状況について
- (2) 京都府周産期医療ネットワーク研修会の開催結果について

2 協議事項(非公開)

地域周産期母子医療センターについて

3 その他

令和6年度京都府周産期医療協議会委員名簿

<委員>

R7.1時点

区分	氏名	所属団体・役職	備考
関係団体	細田 哲也	一般社団法人京都府医師会理事	欠席
	大辻 英吾	一般社団法人京都府病院協会理事	新任委員
	石丸 庸介	一般社団法人京都私立病院協会副会長	
大学病院	家原 知子	京都府立医科大学 小児科学教室教授	協議会会長
	森 泰輔	京都府立医科大学産婦人科学教室教授	
	河井 昌彦	京都大学医学部附属病院 総合周産期母子医療センター (新生児部門 特定教授)	
	千草 義継	京都大学医学部附属病院 総合周産期母子医療センター (産科婦人科 講師)	代理出席
周産期母子医療センター	明石 京子	京都第一赤十字病院 産婦人科医長	代理出席
	西村 陽	京都第一赤十字病院 新生児科部長	
	小松 博史	独立行政法人国立病院機構舞鶴医療センター 母子保健小児医療センター長/副院長	
行政関係	池田 雄史	京都市保健所長	欠席
	今西 孝司	京都市消防局警防部救急課救急管理係長	代理出席
	福川 寛	京都府消防長会救急部会・八幡市消防本部 警防一課・二課	代理出席
	奥田 司	京都府健康福祉部保健医療対策監	

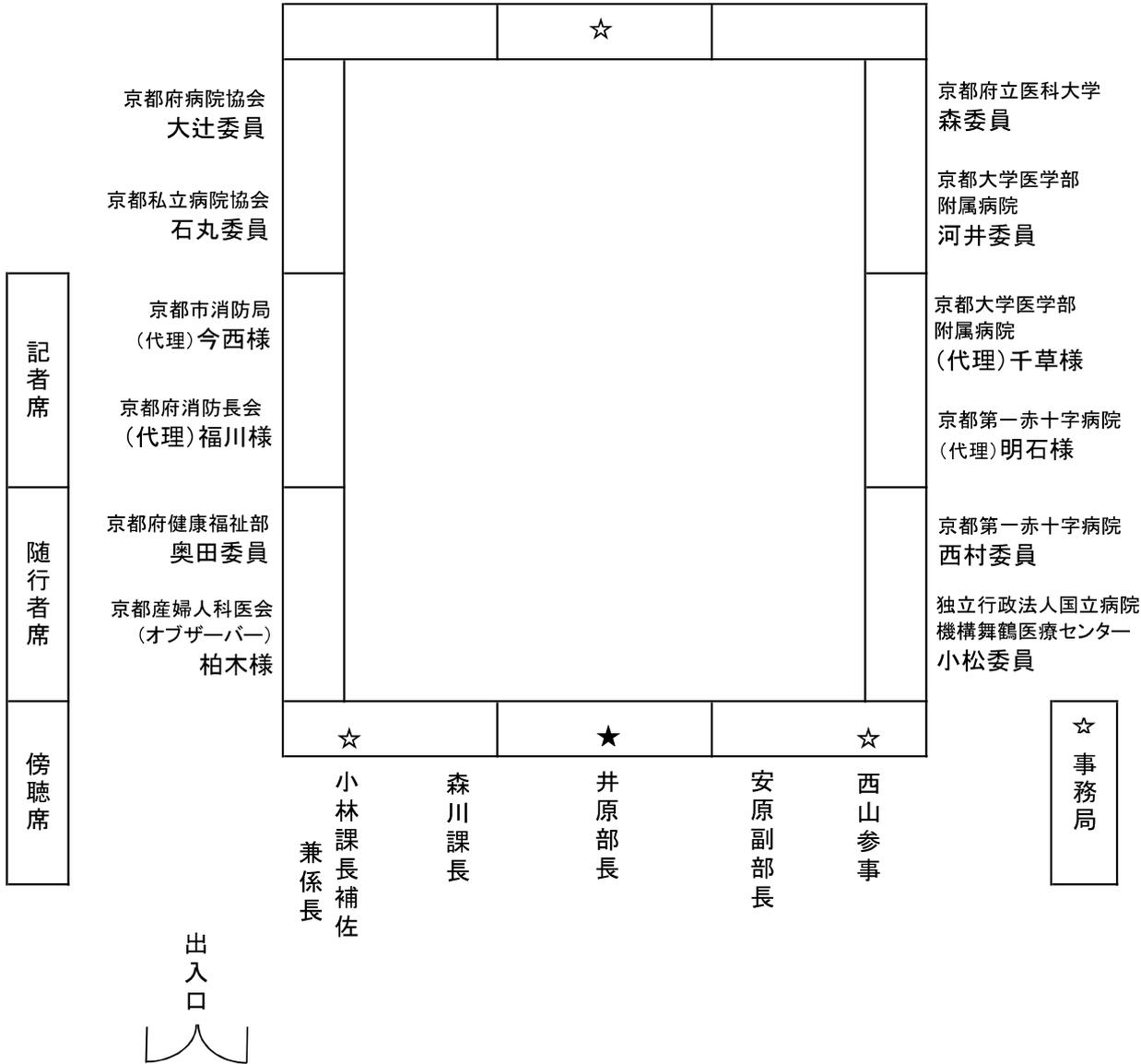
<オブザーバー>

氏名	所属団体・役職	備考
柏木 智博	京都産婦人科医会 会長	
長谷川 功	京都小児科医会 会長	欠席

令和6年度京都府周産期医療協議会 配席図

令和7年1月30日(木)午前10時00分～午前12時00分
京都ガーデンパレス 鞍馬

家原会長



◎京都府周産期医療ネットワークについて

1 周産期医療ネットワークの概要

<目的>

府内の総合・地域周産期母子医療センターと分娩取扱病院・診療所間を通信回線で結び、現場の医師等に適切な助言等を行うシステムを導入することで周産期医療の質の向上及び産科医等の長時間労働の解消を図る。

<経過>

○令和3年度第2回周産期医療協議会（R4.2.9～書面開催）

- ・全国トップクラスの周産期医療体制の構築を目的に、周産期医療協議会の中に「周産期医療体制強化WT」を設置することを承認

○第1回～第3回周産期医療体制強化WT検討会議（R4.3.17、5.23、6.8～書面開催）

- ・妊婦情報を幅広く情報共有できるシステムを導入し、医療機関間の連携を進めることを承認
- ・周産期医療ネットワークの導入等について周産期医療協議会に提出する意見書を作成

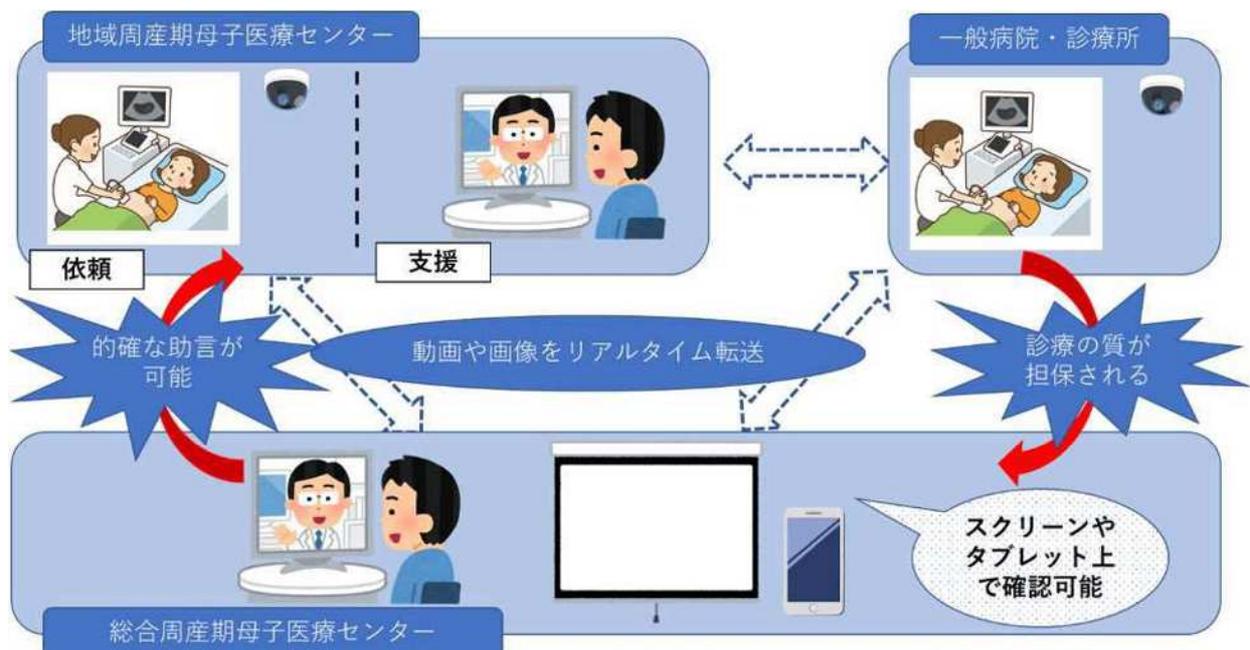
○令和4年度周産期医療協議会（R4.7.8、9.9～書面開催）

- ・周産期医療体制強化WTからの意見書を承認（第1回）
- ・システム導入に向けた機種選定のため、「周産期医療ネットワーク選定委員会」を設置することを承認（第2回）

○第1回～第3回周産期医療ネットワーク選定委員会（R4.10.5、10.18～書面開催 11.28）

- ・提案業者3社からのプレゼンを実施し、推薦業者を決定
⇒令和4年度は府中北部及び南部地域の病院、令和5年度は同地域の診療所にシステムを導入済み

<導入イメージ図>



2 今年度の進捗状況

(1) 導入医療機関について

支援側医療機関			依頼側医療機関		
区分	医療圏	医療機関名	区分	医療圏	医療機関名
総合	京都・乙訓	京都第一赤十字病院	病院	丹後	京丹后市立弥栄病院
総合		京都大学医学部附属病院	病院	山城北	都倉病院
総合		京都府立医科大学附属病院	診療所	中丹	由良産婦人科・小児科医院
地域	丹後	京都府立医科大学附属北部医療センター	診療所	中丹	片山産婦人科
地域	中丹	舞鶴医療センター	診療所	南丹	田村産婦人科医院
地域		舞鶴共済病院	診療所	南丹	山口マタニティクリニック
地域		市立福知山市民病院	診療所	山城北	曾我産婦人科
地域	南丹	京都中部総合医療センター	病院	京都・乙訓	足立病院
地域	山城北	京都田辺中央病院	診療所		中部産婦人科
地域	山城北	宇治徳洲会病院	診療所		醍醐渡辺クリニック
地域	山城南	京都山城総合医療センター	診療所		ハシイ産婦人科
地域	京都・乙訓	京都医療センター	診療所		川村産婦人科
地域		日本バプテスト病院	診療所		近藤産婦人科
地域	乙訓	三菱京都病院	診療所	柏木産婦人科	

※総合・地域周産期母子医療センターを支援側施設とする。

○今年度及び令和7年度で京都・乙訓医療圏の分娩取扱施設に導入し、全医療圏でのネットワーク導入完了を目指す。

○令和6年9月18日及び27日に、京都・乙訓医療圏の分娩取扱施設を対象としたネットワーク導入に係る説明会を開催。

→ 導入希望施設のうち、10施設への今年度中の導入を進めているところ。

(2) 活用実績

令和6年3月1日～12月31日の間で232件の運用実績あり。

<施設類型別活用実績>

		支 援 側			
依 頼 側		一般病院・診療所	地域周産期医療C	総合周産期医療C	計
	一般病院・診療所		42 (18%)	64 (28%)	106 (46%)
	地域周産期医療C		74 (32%)	52 (22%)	126 (54%)
	総合周産期医療C			0	0
	計		116 (50%)	116 (50%)	232 (100%)

<活用事例>

・低フィブリノゲンの妊婦について相談を受けた際、分娩時の大量出血による母体死亡リスクが高かったため、フィブリノゲン補充の指示をした。その後分娩となり、母子ともに経過良好であった。

・乳癌の疑いのある妊婦について、ネットワークを活用して迅速に精査を行い、近隣の乳癌診療に長けた施設を紹介することで早期治療につながった。

・支援側施設からの助言により、常位胎盤早期剥離の即診断及び緊急帝王切開の迅速な方針決定が行えた。

・近年の切迫早産治療の動向等についてカンファレンスを行い、依頼側施設の治療方針が変更された。

◎京都府周産期医療ネットワーク研修会の開催結果について

(1) 開催趣旨

周産期医療ネットワークの導入を更に推進していくに当たり、日本初で周産期医療ネットワークを導入した宮崎県の先行事例が参考になることから、宮崎大学鮫島学長に基調講演を行っていただき、参加者とのディスカッションを実施

(2) 開催内容

○日時

令和6年6月22日(土) 14時30分～15時30分

○場所

TKPガーデンシティ京都タワーホテル2階「山吹」

○参加者(33名)

京都府内全分娩取扱病院・診療所及び関係団体の関係者

○内容

- ・鮫島宮崎大学長による講演、ディスカッション
- ・ネットワークシステムのデモンストレーション

(3) 講演内容

○周産期医療ネットワークの導入に至った経緯について

- ・症例検討会を重ね、県内をブロックごとに見た場合、県西地区の周産期死亡率が高いこと等を踏まえ、まず同地区に導入(2012年～)
- ・以後、導入地区を拡大していき、2018年には全地区に導入済み

○導入による効果について

- ・一次施設と二次・三次の高次施設を繋ぐことにより、複数の目で第三者的視点を加え、管理方針を相談できる等の効果
- ・胎児機能不全での帝王切開率が上昇しない、重度仮死が減少することでNICUにも利点があること、等

○まとめ

具体的な症例を通して、「一刻をあらそう常位胎盤早期剥離症例の予後改善への利用可能性」、「ネットワーク共有することで、時間をさかのぼって胎児心拍数パターンを確認できる」、「胎児心拍数パターンの経時変化を確認できる」、「状況により即した受け入れ態勢を調整できる」等のネットワークの有用性が示された。

京都府周産期医療 ネットワーク研修会

2024年6月22日（土）14：30～15：30
（14：10受付開始）

対 象：京都府内全分娩取扱病院・診療所及び関係団体

場 所：TKPガーデンシティ京都タワーホテル2階「山吹」

参 加：参加費無料・事前申込制

申 込：5月31日（金）までに以下の内容を申込書に記載し
下記宛先まで送付

- ①参加者名（複数名の場合は全員の氏名を記載願います）
- ②周産期医療ネットワークに関する疑問、意見

【宛先】医療課 医療人材確保係（TEL 075-414-4716）

住 所：〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町

FAX：075-414-4752

メール：iryokakuho@pref.kyoto.lg.jp

内 容：鮫島宮崎大学長による講演、ディスカッション、
ネットワークシステムのデモンストレーション 等

講師：鮫島 浩（宮崎大学長、前病院長、産婦人科教授）



—略歴—

昭和56年に鹿児島大学医学部を卒業し、鹿児島市立病院、
米ロマリダ大学等の産婦人科を経て宮崎大学に着任。

同大学の産婦人科診療科医長や附属病院長を歴任し、
令和3年から宮崎大学長に就任。

全国初の「分娩時医療情報ネットワークシステム」の構築
及び運用にも、長年に渡り尽力してこられました。

司会：中川 正法（京都府立医科大学名誉教授、京都府健康福祉部参与）

設立趣意書

森と海の京都新生児蘇生法（NCPR）普及ネットワーク

「すべての分娩に新生児蘇生法を習得した医療スタッフが新生児の担当として立ち会うことができる体制の確立」を目指し、新生児蘇生法(Neonatal Cardiopulmonary Resuscitation; NCPR)講習会は広く全国的に行われています。この講習会に最前線で携わっているインストラクターは、

- ① すべての分娩に質の担保された標準的な新生児蘇生法が提供されるように普及活動を行う
- ② 受講者が実臨床で効果的な新生児蘇生が実践できるように意識して講習を行う
- ③ 新生児の未来を守る人材を育成するというやりがいと責任感を共有するというビジョンと価値観を共有して活動しています。

京都府北部においてもこれまでインストラクターの情熱により NCPR 講習会が継続的に開催されてきました。しかし都市部から離れた京都府北部では多くの障害が立ちはだかっています。

- インストラクターが少なく、十分な受講の機会を提供できていない
 - 多くの場合インストラクターの個人的な努力に依存しており、インストラクターへの負担が大きい
 - 地域によってはインストラクターが勤務しておらず、開催そのものが困難である
 - 受講者にとって都市部開催の講習会への参加は時間的・経済的負担が大きい
 - インストラクターの多くは病院勤務であり、診療所・助産院で分娩に携わる方への受講の機会の提供ができていない
- などの問題点があります。

私たちは、これらの障害を乗り越え、京都府北部での NCPR の普及と継続を目指して、森と海の京都 NCPR 普及ネットワークを設立します。

森と海の京都 NCPR 普及ネットワークは、次のような理念・目標を掲げ活動します。

1. 京都府北部において標準的な新生児蘇生法を普及させ、新生児死亡の減少と後遺症発症の低下を目指します。
2. NCPR 講習会を定期的にかつ北部全域で開催します。
3. 分娩に関わる全ての医療者の専門(A)コース修了認定取得を目指します。
4. 専門(I)インストラクターの育成を目指します。
5. 活動の活性化と継続性の担保のためにはインストラクターの確保と支援が必要であり、京都府および京都府医師会とより緊密な連携の取り組みを行います。

NCPR の普及は大変社会的要望が強く、この活動こそがより安心安全な分娩につながります。分娩の最前線に携わっておられる皆様のご支援、ご協力を切にお願いいたします。

令和6年7月11日

森と海の京都 NCPR 普及ネットワーク 発起人

NHO 舞鶴医療センター(京都府周産期サブセンター) 母子保健小児医療センター部長

小松 博史

新生児蘇生法(NCPR)の意義

- 出生時に子宮外生活に必要な呼吸循環動態の移行が順調に進行しない事例

は、全出産の約15%に見られる

- 正期産児の約5%で陽圧換気が，2%で気管内挿管が，0.1%で胸骨圧迫や

アドレナリン投与が必要

- mask & bagを用いた人工呼吸や胸骨圧迫により基礎疾患のない事例の大部

分が蘇生できる



- NCPR普及事業の最終的な目標は，「新生児仮死の予後を改善すること」
- 全ての分娩に質の担保された標準的な新生児蘇生が提供される

新生児蘇生法(NCPR)普及のためには

目標

「すべての分娩に新生児蘇生法を習得した医療スタッフが
新生児の担当者として立ち会うことができる体制」の確立



専門 A コースの開催をできるだけ増やす



インストラクターの養成
インストラクターへのサポート

京都府北部におけるNCPR講習会の問題点

インストラクター

- インストラクターになる・維持するためのハードルが高い
 - 公認講習会でのインストラクターや開催責任者の実績が必要
 - Iコース、Fコースの開催が都市部に限られる
- インストラクターが少なく、インストラクター個人への負担が大き
 - 受講者数を増やすために開催回数を多くしたいが、その分負担増となる
 - 異動のため年によりインストラクター数にかなり増減がある
- インストラクターがいない地域が存在する（例：丹後地方）

受講者

- コロナ禍以降公募が激減しており、講習会への参加の機会が減少している
- 他地域での開催講習会の受講は時間的・経済的負担が大き
- 受講の意欲はあっても、勤務や家庭の事情から参加が困難な事がある

その他

- シュミレーターなどの物品面での単一施設では困難な事がある
- 講習会の充実やNCPRの理解・技量を深めるには外部からのインストラクターの招聘が望ましいが、資金面などでの問題に直面している

京都府北部在住E-インストラクター

青木 昭和	秋田 大輔	秋田 充代	足立 侑	新居 育世
荒木 亮佑	荒美 香	石川 依子	磯部 未優	市田 育子
伊藤 智子	伊藤 恵美	今井 朝彦	岩永 甲午郎	上杉 まどか
植地 美奈	薄井 裕子	宇都宮 剛 ①	大内 裕美	大谷 真弘
大西 香蓮	大平 実子	岡崎 美香	奥村 保子	甲斐沼 里美
笠原 和恵	鍛冶 真理耶	梶山 葉	釜山 奏	川原 玲子
川見 えりか	菊地 尚子	岸上 木綿子	岸本 幸子	北 誠
北村 一将 ②	北村 直行	木下 大介	栗山 望	小松 博史
佐藤 仁美	塩見 英子 ㊦	塩見 梢	茂原 慶 ②	篠塚 淳
瑞木 匡	杉並 興	杉本 美恵	砂田 真理子	多田 美穂
鶴川 慎一郎 ①	友滝 清一	仲澤 千幸	中田 麻美	中谷 朱美
中谷 理英	中堀 裕代	長松 有衣子	南部 幸恵 ㊦	西山 真代
新田 環恵	野溝 万吏 ㊦	長谷川 龍志	八里 あゆ美	花岡 信太郎
花尾 美希	濱中 温子 ㊦	樋口 恒司	久門 具子 ①	藤井 剛
前田 真治	前田 未音子	栴田 翠	松村 うつき	南 有香 ㊦
皆元 梓	身原 香子	本倉 浩嗣	森元 英周	諸戸 雅治
矢野 阿壽加	山上 有美	山川 孔	山岸 彩	山崎 ゆか
山本 あき	湯口 沙矢香	横田 浩美	吉田 淳史	和田 卓三
藁谷 深洋子				計 91名

① 舞鶴医療センター小児科医師
 ② 綾部市立病院小児科医師
 ③ 福知山市民病院小児科医師
 計7人

㊦ 舞鶴医療センター 看護師
 ㊦ 舞鶴共済病院 助産師
 ㊦ 福知山市民病院 助産師
 計4人

森と海の京都NCPR普及ネットワーク

設立趣意書

森と海の京都新生児蘇生法 (NCPR) 普及ネットワーク

「すべての分娩に新生児蘇生法を習得した医療スタッフが新生児の担当として立ち会うことができる体制の確立」を目指し、新生児蘇生法(Neonatal Cardiopulmonary Resuscitation; NCPR)講習会は広く全国的に行われています。この講習会に最前線で行っているインストラクターは、

- ① すべての分娩に質の担保された標準的な新生児蘇生法が提供されるように普及活動を行う
- ② 受講者が実臨床で効果的な新生児蘇生法が実践できるように意識して講習を行う
- ③ 新生児の未来を守る人材を育成するというやりがいと責任感を共有する

というビジョンと価値観を共有して活動しています。

- 京都府北部においてもこれまでインストラクターの情熱により NCPR 講習会が継続的に開催されてきました。しかし都市部から離れた京都府北部では多くの障害が立ちただかっています。
- インストラクターが少なく、十分な受講の機会を提供できていない
- 多くの場合インストラクターの個人的な努力に依存しており、インストラクターへの負担が大き
- 地域によってはインストラクターが勤務しておらず、開催そのものが困難である
- 受講者にとっても都市部開催の講習会への参加は時間的・経済的負担が大き
- インストラクターの多くは病院勤務であり、診療所・助産院で分娩に携わる方への受講の機会の提供ができない

などの問題点があります。

私たちは、これらの障害を乗り越え、京都府北部での NCPR の普及と継続を目指して、森と海の京都 NCPR 普及ネットワークを設立します。

1. 森と海の京都 NCPR 普及ネットワークは、次のような理念・目標を掲げ活動します。
2. 京都府北部において標準的な新生児蘇生法を普及させ、新生児死亡の減少と後遺症発症の低下を目指します。NCPR 講習会を定期的にかつ北部全域で開催します。
3. 分娩に関わる全ての医療者の専門(A)コース修了認定取得を目指します。
4. 専門(I)インストラクターの育成を目指します。
5. 活動の活性化と継続性の担保のためにはインストラクターの確保と支援が必要であり、京都府および京都府医師会とより緊密な連携の取り組みを行います。

NCPR の普及は大変社会的要望が強く、この活動こそがより安心安全な分娩につながります。分娩の最前線に携わっておられる皆様のご支援、ご協力を切に願っています。

令和6年7月11日

森と海の京都 NCPR 普及ネットワーク 発起人
NHO 舞鶴医療センター(京都府周産期サブセンター) 母子保健小児医療センター部長 小松 博史

医師	40		
小児科	22	産婦人科	12
助産師	51	その他	6
病院勤務	38	その他	13
看護師	48		
病院勤務	45	その他	13
コメディカル	6		
一般	65		
合計	210		

森と海の京都NCPR普及ネットワーク 組織

◆ 役員

- I. 会長：小松博史（NHO舞鶴医療センター小児科）
- II. コアメンバー：瑞木匡（京都府立医科大学小児科）、今井朝彦（NHO舞鶴医療センター小児科）、鶴川慎一郎（NHO舞鶴医療センター小児科）、松村うつき（NHO舞鶴医療センター）、諸戸雅治（市立福知山市民病院小児科）、茂原慶一（綾部市立病院小児科）、真弓あずさ（京都府立医科大学附属北部医療センター小児科）
- III. ネットワークメンバー：田中誠治（京都府立医科大学附属北部医療センター小児科）、北村一将（綾部市立病院小児科）、濱中温子（NHO舞鶴医療センター看護師）、南部幸恵（舞鶴共済病院助産師）、塩見瑛子（市立福知山市民病院助産師）、新宮美紀（みき助産院助産師）、永木ひとみ（京都府助産師会丹後支部長助産師）

◆ 事務局

NHO舞鶴医療センター 庶務班長

◆ 規約

2024年11月18日 施行

森と海の京都NCPR普及ネットワーク 第1回講習会

森と海の京都 NCPR普及ネットワーク 第1回 新生児蘇生法講習会 NCPR Aコース

全ての赤ちゃんは安全に生まれてくる権利があって、
我々医療従事者は、そうなるよう努力する義務がある。

残念ながら京都北部でも、生まれたときの影響で発達症を發す赤ちゃんがいます。
この度、京都北部の周産期医療の発展のため、「森と海の京都NCPR普及ネットワーク」
が立ち上げられました。

医師や看護師・助産師の皆様だけでなく、救急救命士や看護学生の皆さんなど、多くの方の参
加をお待ちしております。また、我々はNCPRインストラクター資格を取得していただくための
お手伝いもさせていただきます。ご希望の方はご連絡ください。

開催日：2025年1月11日（土）

時間：12時開始 17時終了予定

場所：国立病院機構 舞鶴医療センター内 研修センター
参加費：3000円 人数：50人

お問い合わせ先：

舞鶴医療センター 小児科

小松博史、今井朝彦

Tell：0773-62-2680

Email：h_s.coma2@yayahoo.co.jp

t-imaie@koto.kpu-m.ac.jp

後援：

- 一般社団法人日本周産期・新生児医学会 新生児蘇生法普及事業
 - 京都知恵産業創造の森 令和6年度地域連携支援事業
- 「京都北部で勤務する、お産に関わる全ての医療従事者が新生児蘇生法を獲得するための試み。」

インストラクター 24名
主 8名 補助 16名
医師 12名 助産師 5名
看護師 4名 救急救命士 2名
看護学校教員 1名

8 ブース構成

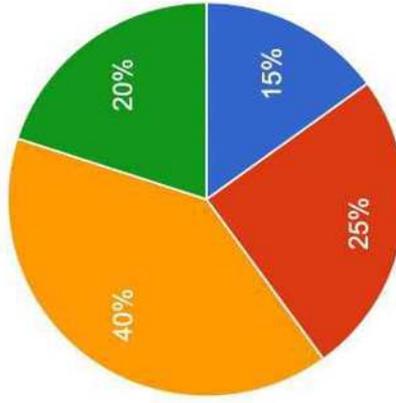
受講者 37名
医師 5名 助産師 9名
看護師 18名 救急隊員 5名



講習会開催後アンケート調査(1)

インストラクター資格の取得を目指していますか。

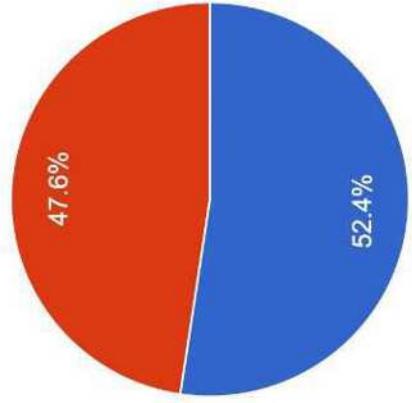
20件の回答



- ト インストラクターの資格獲得を目指し...
- J- インストラクターの資格獲得を目指し...
- 目指していない
- すでに取得している

森と海の京都NCPR普及ネットワーク主催のNCP...一として参加していただくことは可能でしょうか。

21件の回答



- はい
- いいえ

講習会開催後アンケート調査(2)

森と海の京都NCPN普及ネットワークについてのご意見がございましたらご記入ください。

12件の回答

是非2回目以降の開催も参加させて頂きたいと思えます。よろしくお願い致します。

参加させて頂き、ありがとうございます。今後も参加させて頂けると幸いです。

特にありません。お世話になりましたありがとうございます。

今後とも微力ながらお手伝いをさせて頂いていただければと思います。

医療の過疎地域でもある京都府北部でも、都市部と変わらぬ質の高い医療が提供できるよう、自分の職場でできることから協力していきたいとおもいます。また、学ぶ機会に積極的に参加して、自分をブラッシュアップしていきたいです。ありがとうございます。

また機会がありましたら今度はインストラクター/インストラクター補助として参加したいです！

急に参加させていただきありがとうございました。以前と謝野海病院で行いました講習会は3階でとん挫し、開催が属人的な要因で左右されてしまおうと継続性が担保できなかつた経験があります。今後それぞれの地区での普及と今後のネットワークの継続に、講座としても少しでも貢献できればと思います。今後ともよろしくお願いたします。

今後、できれば毎年開催していただけるとありがたいです。

今後ともよろしくお願致します。

第2回の開催に向けて引き続きよろしくお願いたします。

京都北部の発展に貢献される志に感銘しました。

インストラクターのメンバーをみると北部地域の小児科の先生でこの講習会が成り立ちっており、先生方の負担を軽減するためにもインストラクターを増やす必要を感じました。私自身もインストラクターになって協力したい気持ちはありつつも、普段の勤務の中で救命の流れになることが少ないので、ついていけない、力不足と感じていて、インストラクターになるかどうか迷っている部分もあります。それから、このネットワークで講習会を開催することでインストラクターも受講生も交流や情報交換の機会になると思っていますので、施設や団体にインストラクターがいても、このネットワークでの講習会の開催を希望します。

森と海の京都NCPR普及ネットワーク これから

- 年2～3回の定期的な講習会の開催を目指す
 - 専門 A コース 2回/年 , スキルアップ S コース 1回/年
 - 各地域でニーズに応じ順次開催
- 地域に定着したインストラクターの養成を行う
 - 助産師、看護師のインストラクター養成
- 分娩を扱う医療機関全体としてのNCPRへの理解と開催・受講へのサポートを獲得していく
- 京都府北部地域における周産期医療全体のネットワーク・人的つながりの構築を目指す

森と海の京都新生児蘇生法(NCPR)普及ネットワーク 規約

第一条 本会は「森と海の京都新生児蘇生法(NCPR)普及ネットワーク」と称し、本部事務局は独立行政法人国立病院機構(NHO)舞鶴医療センター（以下 NHO 舞鶴医療センターという）に置く。

（目的）

第二条 本会は京都府北部地域における安心安全な周産期医療を確立するため新生児蘇生法 (Neonatal Cardio-Pulmonary Resuscitation : NCPR)の知識・技量を分娩に関わる医療者の全ての方が獲得することを目標に活動する。

（活動）

第三条 本会は次の活動を行う。

1. 京都府北部地域において新生児蘇生法講習会を定期的かつ参加の利便性を考慮し開催する。
2. 専門 (I) インストラクター養成のために支援を行う。
3. 周産期における新生児蘇生法の重要性の認識を広めるため講演会など各種広報活動を行う。
4. 周産期医療や新生児蘇生法に係る様々な情報収集・問題点の抽出とその解決や医療者間の連携強化などを行う。

第四条 本会は本会活動の趣旨に賛同する会員をもって組織する。

第五条 会費は徴収しない。

第六条 役員は、会長 1 名、コアメンバー 5～10 名、メンバー 5～10 名、会計 1 名とし、選任は役員内での合議の上決定する。

第七条 役員の任期は定めない。

第八条 本会の会議は会長あるいはコアメンバーが招集したメーリングリストを用いたメール会議やオンライン会議、あるいは集合形式での会議で行う。

第九条 本会の会計事業期間は、毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする。

附則

この規約は令和 6 年(2024 年) 11 月 18 日から施行する。

森と海の京都新生児蘇生法(NCPR)普及ネットワーク 運営・業務

一 新生児蘇生法講習会の開催・運営

I. 講習会受講料は以下に定め、銀行振り込みによる前払いとする。なお災害や交通事情による止むを得ない欠席を除き受講料は払い戻ししないものとする。

① 専門(A)コース： 3,000 円、スキルアップ(S)コース： 1,500 円、一次(B)コース： 1,500 円

② 振込先 キョウトホクトシンヨウキンコ クラハシテン 京都北都信用金庫 倉梯支店 普通 0382944

口座名義 ドクリツギョウセイホウジンコクリツビョウインキコウマイヅルイリョウ 独立行政法人国立病院機構舞鶴医療センター

II. 主インストラクター・インストラクター補助者に対する報酬は以下に定める。ただし NHO 舞鶴医療センター勤務の者についてはこの限りではない。また、交通費は別途実費を支給する。

① 主インストラクター 専門(A)コース： 15,000 円、スキルアップ(S)コース・一次(B)コース： 10,000 円

② インストラクター補助 専門(A)コース： 5,000 円、スキルアップ(S)コース・一次(B)コース： 3,000 円

III. 開催にあたっての留意点

① 1 ブース当りの参加者は、専門(A)コースは 8 人、スキルアップ(S)コースは 6 人、一次(B)コースは 10 人以内と定められており、その人数内で効率的・効果的なインストラクターおよび受講者の配置を行うこととする。

② 日本周産期新生児医学会 NCPR 普及事業への開催申請は、専門(I)インストラクターの持ち回りとする。

IV. 病院内などの小規模開催については、その開催を妨げないものとする

二 会計

I. 本部事務局の設置されている(NHO)舞鶴医療センター管理課が行う。

II. 各年度末に会計監査の上、会長より会計報告を行う。

III. 会計監査はネットワークメンバーのうち事務局以外の施設の中から 1 名選出する。

三 役員 敬称略

I. 会長：小松博史 (NHO 舞鶴医療センター小児科)

II. コアメンバー：瑞木匡 (京都府立医科大学小児科)、今井朝彦 (NHO 舞鶴医療センター小児科)、鶴川慎一郎 (NHO 舞鶴医療センター小児科)、松村うつき (NHO 舞鶴医療センタ

一)、諸戸雅治(市立福知山市民病院小児科)、茂原慶一(綾部市立病院小児科)、真弓あずさ(京都府立医科大学附属北部医療センター小児科)

- III. ネットワークメンバー：田中誠治(京都府立医科大学附属北部医療センター小児科)、北村一将(綾部市立病院小児科)、濱中温子(NHO 舞鶴医療センター看護師)、南部幸恵(舞鶴共済病院助産師)、塩見瑛子(市立福知山市民病院助産師)新宮美紀(みき助産院助産師)、永木ひとみ(京都府助産師会丹後支部長助産師)

附則

令和6年11月18日現在